

アプローチとアクセスボックス

問1 ✓ 学習の内容 重要古語の意味

A 気色(名) ① 表情・態度・そぶり・顔つき

② 景色・ありさま

B 召す(動) ① お呼びになる

② 召し上がる

③ お召しになる

④ お乗りになる

⑤ 取り寄せなさる

C 沙汰(名) ① 評議・裁き・処分

② 処置・始末・命令・さしず

③ 評判・うわさ

問2 ✓ 学習の内容 助動詞「む」の意味

① 「御覽せむ」はサ変複合動詞「御覽ず」(ご覧になる)の未然形に「む」の付いたもの。前後の文脈は「陽成院様が、祭をご覧になるうとして」と理解すべきであるから、**意志の用法**である。

② 「見候はむため」はマ行上二段動詞「見る」の連用形に丁寧(テス・マス)の意を添える補助動詞「候ふ」の未然形、「む」の連体形、さらに名詞「ため」が付いたもの。ここは「見ますために」と訳すべきところだが、この場合の「む」をことさらに訳す必要はない。婉曲の用法と考えられる。この②のように、

(一)文中で用いられ、(二)連体形になり下に体言がくる、もしくは**文脈上体言が省略されている**と考え

られる「む」は、**仮定・婉曲の用法**であると判断してよい。

問3 ✓ 学習の内容 助動詞「む」の意味を用例から確認

【発展】

傍線部①を含む「御覽せむ」は、「ご覧になろう」という訳になるので、「む」は**意志の助動詞**「む」終止形。傍線部②は体言「ため」の上にあるので、**婉曲**の助動詞「む」連体形。婉曲の場合は「よような」と訳す場面である。

◎ 選択肢ア〜エの「む」「め」の解説は、次のとおり。

ア「われ」死なぬは「死にたい」という訳になるので、「む」は**意志の助動詞**「め」。「こそ」を受けて係り結びの法則により已然形。

イ「試みさせ給はめ」は「(あなたは) 試みなさるのがよい」という訳になるので、**適当の助動詞**「む」。「こそ」を受けて係り結びの法則により已然形。

ウ「(人は) いかなる心ならむ」は「どのような心だろうか」という訳になるので、**推量の助動詞**「む」。「いかなる」という疑問語を受けて連体形。

エ体言「身」の上にあるので、**婉曲の助動詞**「む」連体形。

アクセスボックス 選択肢の現代語訳と出典

ア 私が先に死にたい。(竹取物語)  
イ あなたは早く試みなさるのがよい。(源氏物語)

としての本質をよく理解しておいてほしい。文末の「て」も忘れずに訳出する。

C「れ」は上の「人に」を受けているので、受身の助動詞「る」連用形。「よされる」と訳す。

A・B・Cの要素を不足なく入れて訳出する。

品詞分解と現代語訳

動詞「踏み殺す」サ行四段未然形 助動詞「る」受身連用形 助動詞「ぬ」強意・終止形 助動詞「べし」推量連用形 踏み殺さぬれぬべし  
動詞「おぼへ」ヤ行下二段連用形 (接続助詞) おぼえてて  
訳(人々に)きつと踏み殺されるだろうと思われ

問5 ✓ 学習の内容 本文との内容合致―選択肢から判別する

選択肢判定ポイント

ア「人々のうわさでことの真相を知った」が×。ことの真相は院司との翁の言葉によって明らかになったのである。

イ「上皇の名をかたつて」が×。翁自身は上皇の名をかたつたわけではない。

ウ 本文の内容に合致しているので、○。

エ「若いころから欠かさず」が本文からは判断できないので、×。

オ 本文の内容に合致しているので、○。

復習問題の解説

①「ラ行四段動詞「知る」已然形(命令形)に接続しているので「り」を用いる。体言「人」の上にあるので、連体形に改める。

②ハ行四段動詞「菓くふ」連用形に接続しているので「たり」を用いる。下に接続助詞「ば」があるが、この場合は順接仮定条件なので、未然形に改める。

②「たり」「り」は、完了(了た、了ってしまった)と存続(了っている、了てある)の働きがある。訳を代入して判断する。  
①「したる」が「した」という訳になるので、完了。  
②「みたらん」が「じっとしている」という訳になるので、存続。

③「知れり」が「知った」という訳になるので、完了。  
④「見知れる」が「見知っている」という訳になるので、存続。

出典 ① 伊勢物語 ② 竹取物語  
① 土佐日記 ② 徒然草 ③ 方丈記

解答

① ①る ②たら ③完了 ④存続

アクセス17 「む・むず・べし」推量以外の働きとその識別

1 活用の型

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用型
む	(ま)	む	む	め	○	○	四段型
むず	○	むず	むず	むず	○	○	サ変型
べし	(へ) べし	べし	べし	べし	○	○	終止形
	(へ) べから	べかり	○	○	○	○	終止形
							終止形

2 「む」の意味は「スイカカエテ」で覚える。

「スイカカエテ」とは、**推量(了らう)、意志(了たい)、勧誘(了なさい)、仮定(了たら)、婉曲(了ような)、適当(了がよい)の6つの意味。**

このうち、**推量・意志**の用法が圧倒的に多い。  
推量: 弱い語調(想像・予定を表す文脈)  
意志: 強い語調(意欲・決意を表す文脈)  
\* 推量は主語が**三人称**、意志は**一人称**を判断の目安とする。その他の意味は、  
勧誘・適当: 弱い語調(よりよい選択をうながす文脈)、主語が**二人称**  
仮定・婉曲: 直後に**体言**がある、あるいは**体言**を補うことができる場合

を判断の目安とする。  
3 「むず」の意味は、おおむね**推量・意志**の二つである。  
4 「べし」の意味は「スイカトメテ」で覚える。

「スイカトメテ」とは、**推量(了らう)、意志(了たい)、可能(了できる)、当然(了べきだ)、命令(了なさい)、適当(了がよい)の6つの意味。**  
初めに可能な意味を入れ、あてはまらない場合、

弱い語調 ↓ 想像・予定 ↓ **推量**  
↓ よりよい選択 ↓ **適当**  
強い語調 ↓ 意欲・決意 ↓ **意志**  
↓ 真理・常識 ↓ **当然**  
↓ 命令・説得 ↓ **命令**  
と判断。